

# 芝浦工業大学 建築学会

vol. 31

2015年11月

芝浦工業大学建築会  
135-8548  
東京都江東区豊洲3-7-5  
TEL. 03-5859-8400  
FAX. 03-5859-8401  
<http://sit-arch.com>

## 建築会会長をお引き受けして

建築会 会長  
枝広英俊（一九七一年卒）



昨年（二〇一四年）の十一月十三日に開催された総会において、前会長の鈴木景氏（一九八六年卒）より引継ぎを受け、第六代目の建築会会長に就任することになりました。任期は会則により三年ということですので、建築学科卒業諸氏のご協力を得ながら、建築会のために微力ながら尽力して参りたい所存ですので、宜しくお願ひ致します。

本学は、一九一七年に東京高等工業学校として創立され、一九四九年に大学としての認可・設置を受け、一九五四年に芝浦工業大学工学部建築学科として、新たなスタートを切りました。昨年の総会直後に開催された「建築学科・設立六十周年記念式典」の実行委員長をお引き受けし、五十嵐理事長や村上学長をはじめとする来賓、多数の元教員、現教員、卒業生、現役学生等のご出席のもと、豊洲校舎大講義室において「歴代教員の紹介」や「卒業生が語る建築学科史」などの企画が催されました。さらに、その後に行われた懇親会では老若男女、先輩後輩を問わず、多くの卒業生が久闇を叙したり、近況報告を受けたりすることができました。また、新たな十年後、二十年後に向けての意見交換もできたようと思われ、有意義なひとときを過ごすことができました。ご協力・ご尽力頂いた建築学科教員、建築会役員・幹事の方々には、厚くお礼と感謝を申し上げます。



は、「記録（記念誌）として残す」という方針のもと、関係者のご尽力により本年（二〇一五年）三月に、「建築学科に関する主な変遷」、「歴代教員からの寄稿」および「卒業生の想い」などを含め、百八十八頁にわたる内容の濃い出版物として刊行することができました。既に数百冊は寄贈あるいは販売させて頂きましたが、現在も別掲の案内の通り、建築会事務局において先着順で販売しておりますので、ご希望の方にはお問い合わせの上、是非、早目にご購入頂ければ幸甚に存じます。

さて、これからの建築会の舵取りを新たな役員・常任幹事と共に任せられた訳ですが、私自身も定年退職まで約半世紀にわたって芝浦工業大学建築学科の学生と教員を経験してきた中で、その長年にに対する恩返しの一環のつもりで取り組む所存です。かつて、建築会の立ち上げおよび活性化のために、学内的には清田清司先生や故小柳津醇一先生が熱心に取り組まれていましたし、卒業生会長としては岩井隆氏、加藤國雄氏、佐藤勝利氏、石井敏明氏、鈴木泉氏の後を受けて、何を、どの様に進めていかかを思案している所存です。原点は建築会会則の目的である「会員相互の親睦を図ることとともに、建築に関する学術および技術の進歩に寄与すること、さらに学生・院生等の育成に寄与すること」にあると思っています。具体的には以下の内容が活動計画となります。

### 一・従来からの活動内容の継続

- ①建築会会報の作成と発行(引き続き毎年発行する)
- ②建築学科卒業生名簿の整理  
(事務局で可能な範囲で掌握する)
- ③建築会同窓会の開催
- ④建築学科 学位授与式への出席と建築会賞の授与  
(二〇一五年度は十一月五日に開催予定)
- ⑤建築デザインチャンピオンシップの後援 など

建築会会報は、卒業生たよりとして毎年発行され、既に第三十号を数えます。建築学科卒業生相互の最大の情報源であり、建築学科や研究室の現況、卒業生の動向、学科行事や建築会行事の紹介および建築会会計報告などが盛り込まれ、同窓の強い絆を築いていることと思います。今後も多くの方々の投稿を期待しています。

卒業名簿の発行は、「個人情報の保護に関する法律」施行後は名簿印刷を控えさせて頂いております。しかし、施行後は名簿印刷を控えさせて頂いております。しかし、

会員の情報は会運営のために必要不可欠であるため、その掌握に勤め、事務局で厳重に管理していきます。住所変更があつた場合や本会報が届いていない方々がいらっしゃいましたら、事務局までお知らせ願えれば幸甚です。

建築会同窓会は、以前は三年に一回の総会後に行われていましたが、最近では毎年開催することによって、情報交換や懇親を深めたいとの意もあって、本年度も開催します。詳細は別掲によつて案内させて頂いておりますが、十二月五日(土)に豊洲校舎で開催する計画で準備を進めていますので、知人・友人・先輩・後輩でお誘い合わせの上、より多くの会員諸氏のご出席を期待しています。

### 二・本年度からの主な活動基本方針

- ①建築会組織の結束の高揚  
(役員・常任幹事、学年別卒業生幹事、研究室別幹事、職域別幹事、大学院生幹事等の見直しと選出)
- ②健全運営のための基盤づくり  
(校友会支部への参入を前提とした準備)
- ③校友会支援および学生支援の推進と卒業生支援の検討  
(建築会総会・同窓会の活性化 など)
- ④学科支援および学生支援の推進と卒業生支援の検討  
(建築会総会・同窓会の活性化 など)
- ⑤建築会の役員・常任幹事は、率直に言つてボランティア活動であるため、多忙な仕事を抱えている中で、一部の方々にお願いせざるを得ない状況下で運営されてきました。今後もこの状況は、大きくなれば変えられないかもしれません。しかし、学年別、研究室別、職域別幹事を可能な限り選出し頂き、それに大學生幹事の協力も得ながら、役員組織の拡大と充実を目指していきたいと考えています。下記に現役員・常任幹事を紹介させて頂いておりますが、自薦・他薦を問いませんので、是非積極的にご参加・ご協力を頂ければと思う次第です。

### 三・新役員・常任幹事の紹介

会長	枝広英俊(一九七一年卒)
副会長	志村秀明(建築学科主任)
同 同	松寿章(一九七八年卒)
同 同	川口英樹(一九九〇年卒)
同 同	道田淳(一九九三年卒)
事務局長	鈴木泉(一九八六年卒)
会計	染谷清(一九六九年卒)
会計監査	郷田修身(一九九一年卒)
同	石井敏明(一九六五年卒)
同	佐藤久松(一九六七年卒)
常任幹事	井家常雄(一九六八年卒)
同	辻村建(一九七一年卒)
同	吉本竜也(一九九一年卒)
島崎寛(一九六八年卒)	
同	萩野正和(一九〇六年卒)
同	数名を募集中
顧問	清田清司(一九六一年卒)
同	田口継道(一九六四年卒)
同	石井敏明(一九六五年卒)

最近では、率直なところ、ほぼ同じ役員・幹事によつて総会・常任幹事会・同窓会が企画・運営されてきたようと思われます。勿論、本年度からの役員・常任幹事等の皆様は経験も豊富ですし、積極的に取り組まれていらっしゃいます。しかし、既に七千名を超える建築学科卒業生の会にしては、余りにも少なく、かつ片寄りがあると思われます。そこで、設計や構造や設備や施工あるいは行政など、多分野でご活躍の卒業生からボランティアではあります。企業別幹事等として推薦をさせて頂く予定ですが、自薦も繋がると思っています。卒業年代別幹事、研究室別幹事、企業別幹事等として推薦をさせて頂く予定ですが、自薦も

お願いしたいと思っています。是非幹事をお引き受け頂いて、年数回の幹事会と、総会・同窓会等へのご協力を頂きたいと強く切望する次第です。

### 四・建築会への協力・参加のお願い

本年度は、政治的にも経済的にも安全保障関連法案の審議や株価の変動が激しい中で、新たな局面を迎えるようとしています。また、新国立競技場の建設設計画は混迷する中で新たな局面を迎えようとしています。一方、学内では二〇一四年に文部科学省にスーパーバーローバル大学(SGU)の一つに選ばれ、大学の国際化に向けて様々な取り組みが行われています。

また、現在の板橋中学・高等学校が二〇一七年には豊洲に移転する準備が着々と進められています。さらに、以前から検討されていた学部学科再編の一環として建築学部構想が進められ、多くの課題を残しながら建築学科・建築工学科・デザイン工学科(建築空間デザインコース)が一学部・一学科を構成し、かつ豊洲一貫教育を行う方向で準備が進められているように伺っています。その様な中で、建築会としては慢性的なこれまでの活動を見直し、建築学科との連携、建築会員相互の連携強化、学生への支援等を活動の柱として進めていきたいと考えています。

昨年度の「建築学科・設立六十周年記念式典」を契機として、まずは卒業生相互の輪を広げ、絆を深めることができます。必要であると考えています。建築学科卒業生の参加と協力を宜しくお願い致します。

【芝浦工業大学名誉教授／第六代建築会会长】



2015年3月、定年退職後に日本平(富士山)へ旅行

建築会の会計報告は、年一回の会報によって行われていますが、収入の殆どは会員の年会費及び卒業時の建築会入会費によって賄われています。会報の継続発行・充実や、建築会としての行事の企画・運営、学科・学生への支援等を考えると、先細りは否めませんので、卒業生の皆様には何卒よろしく年会費の納入の協力をお願いする次第です。当然ながら、活性化を図るとともに、収支のみえる化とその報告には、鋭意努力させて頂きます。

芝浦工業大学校友会は、勿論、全学科の卒業生(約十万人強)によって組織されている会です。現在八十を超える支部によって構成されていますが、五十嵐久也前会長(現本学理事長、一九六四年建築学科卒)、鈴見健夫現会長(一九七〇年建築学科卒)の指導力もあって熱心で健全な活動が行われています。私も副会長の一人として校友会に参画させて頂いていますが、建築会のためには校友会と確信しています。今後、建築学部構想が進められている中で、会員諸氏のご意見も伺い、会則の整備や運営方法も十分検討した上で、校友会建築学科同窓会支部としての方向性を探りたいと思っています。

建築学科学生への支援という意味では、以前から学位授与式への出席と祝辞が主でした。以前は成績最優秀賞として建築会賞の授与も行われていましたが、最近では中断されていることから、その復活も考えたい。また、簡単ではないと思われますが、建築学科教員やキャリアサポート課とも相談した上で就職活動のための情報提供や紹介、またリクルーターとのネットワークを構築し、より希望に則した就職内定と就職率アップに助力できればと考えています。さらに、卒業生相互の繋がりを深めて転職や再就職にも寄与できればと考えています。そのためにも建築会総会・同窓会への関心を高め、より多くの出席を期待する次第です。

## 着任のご挨拶

濱崎仁



一〇一四年四月に建築学科に着任させていただきました濱崎と申します。着任した昨年度は、建築学科の設立六十周年という記念の年でもあり、歴史のある建築学科に着任できましたこと誠に嬉しく思います。この場をお借りして着任のご挨拶と自己紹介をさせて頂きます。

担当する分野は建築材料、建築施工に関する分野で、昨年度から建築会の会長を務められている枝広英俊先生の後任になります。枝広先生の後任ということですので、相続の繋がりは心強く感じております。自身の専門分野はコンクリート系材料で、特にRC建築物の耐久性確保や調査・診断、補修・補強技術などになります。生まれは長崎で、九州大学大学院を修了後、茨城県つくば市にある建築研究所に十八年間勤務しておりました。自宅がつくば市にありますため、毎日片道二時間をかけて豊洲に通っています。建築研究所のことは、「ご存じの方もいらっしゃると思いますが、公的・行政的な立場で建築や都市に関する研究開発をするというのが役割です。私も基礎研究から法令改正に関するようなことまで幅広く経験をさせてもらいましたが、教育経験についてはほとんどなく、新米教員です。大学での授業では、偉そうな顔をして学生に教えながらも、裏では必死になつて勉強する毎日です。

私が前職時代から取り組んできて、本学に来てからも引き続き研究テーマとして取り組んでいることとして、既存の建築物を有効に活用するための技術開発があります。スクラップアンドビルトからの脱却や、これからはストックの時代だ、ということはつい「ぶん前から叫ばれているように思いますが、少なくとも建築の分野ではまだそのパラ

変なひんしゅくを買つとおもいますが。今も、この小説を教えてくださいました先生に心から感謝しています。

【元 株式会社大林組勤務】

## 新国立競技場問題が象徴するもの

田辺潔（一九六六年卒）



嘗てセンセーションゼミで三大巨匠の時代は終り、これからは若手建築家の群雄割拠の時代だ」と息巻いて昭和四十一年に卒業し、設計事務所勤務を経験したが何かつくり来ず、二年後にはフリーランサーと称して各種の事業の手伝いで過ごす中、建築業界の活況と、列島改造論の気運に押されて昭和四十七年に現在の事務所を設立した。しかし広島の田舎出身の身では直ぐに単独受注へは漕ぎつけず、思案の末に土地の有効活用提案が受注への近道と、当時の若手不動産業者や税理士、銀行マン達との交友の中で激論を交わしていた。運良く環八計画地内地主の高井戸内藤家への土地活用提案で、当時としては新手法の「借地権付等価交換事業」での店舗付共同住宅の設計を担当した。

それが契機となり、土地活用の事業企画立案、事業コンサルタント及び設計監理を主業務とする事となつた。そして昭和五十九年に川口市で「優良建築物等整備事業」の第一号を手掛けた事で川崎、所沢、橋本、浦和と数多くの担当案件に恵まれ現在に至つている。卒業以来半世紀、昨年若手社員に社長職を譲り、現在は会長として街造りの手法の研究や企画をしている。

今回の新国立競技場問題が象徴するものは、現在一見して建築業界好況の様相を呈しているが、コストコントロ

## 人生とは、儘ならないものだ

橋本貞章（一九七一年卒）



七十二歳を迎えるこの頃、「林間に紅葉を焼き酒を暖むる（白居易）」の心境が少し解る様な気がしています。

【土地活用の事業企画立案・コーディネート・設計監理】

私は数学と物理が苦手である。にも拘らず何故、芝浦工業大学の建築学科に入学したのか。一つ目の理由は、他の大学の文系の入学試験の全てに受からなかつたからだ。二つ目は、付属高校の担任の先生が芝浦工大の受験を勧めたからだ（先生はお見通しだった）。では、何故「建築学科」だったのか。高校生当时、東京五輪の代々木体育館が格好良かったからだ。理由はあまりにも単純だった。これでは建築学科の在校生や歴代の卒業生達に申し訳ないと思う。

運良く入学できたが、案の定、微分積分は理解不能。それでも私なりに努力し、単位は取得。世は学園紛争真っ盛り。芝浦工大も渦中だったが、私は生活のためのバイトに

一月の出来ない設計事務所にとって、その実は建築費高騰での公共事業の入り不調や床価格に転化可能な都心の特定の場所以外での再開発の中止等の諸問題を孕んでいます。嘗ての東京五輪当時の大手ゼネコンはコストリスクを取る中で創造力を含んだ技術開発競争に切磋琢磨する等、建築家の最良の支援者であった。現在はコスト最優先の時代で、「地方の時代」とは単に政治的アドバルーンに過ぎず、その実は益々の東京一極集中が激化している。少子高齢化が進む中、コンパクトシティーに向けて中心市街地の再開発や共同住宅の建替事業等の新事業方式の開発が益々必要と思えるこの頃である。

明け暮れた。

研究室の先生の紹介で、K商事に就職内定。工学系から脱出の筈だったが、沈没。卒業間近の三月になつて、何とか中堅ゼネコンに就職決定。だが、当時の建設の職場環境は酷いものだった。タコ部屋の宿舎。日雇い労務者扱いの現場。五〇どころか七〇だった。辞めたいと父母に相談。父母は、折角、大学の建築学科を卒業したのだし、一级建築士を取得してからにして欲しいと切望。構造のモノメントが理解できず、一年目は失敗。他の学科でカバーし、二年目に合格。これで逃避の筈だったが、その年に父が病に倒れ、生活のために退社を断念。だが、一级建築士取得で会社の待遇が改善。主任、所長と昇格するとともに、建物完成時の達成感を味わえるようになつた。究極は所長時代にバブルを堪能できることだ。還暦を過ぎ、「のんびりとした老後」のはずだったが、三年前、偶然に撮ったCT画像から、胸水の貯留が見つかり、病理検査の結果、悪性胸膜中皮腫との宣告。死の恐怖に襲われる。手術・放射線治療と闘病する中で、生きて来た証しを残したいと思い、本を一冊出版した。一瞬でも死の恐怖から逃れるためでもあった。本はノンフィクション小説である。

一冊目の「藤堂主任助けてください」（一粒書房）は、建設従事者のこの位は構わないだろうという手抜きが、三十年経つた後に倒壊の恐れのある欠陥建物になつた話。「一冊目の『仄かな希望』（一粒書房）は、アスベストによる健康被害が分かつていながら、国や特定企業が迅速な使用中止を断行しなかつたために、ゼネコンの現場監督がアスベストに因る癌（中皮腫）罹患してしまい、苦しくて辛い人生を強いられ苦悩する姿を綴つた話。

生きた証としての小説を出版し、四十五年経つてやつと念願の文系の人生になつた。

【元中堅ゼネコン、現在無職】

□」をTVで見ました。そして毎年、サン・テクジユベリの名作「夜間飛行」を思い出します。

一九五七年建築学科に入学しました。高校でフランス語を第一外国語選択しましたので、フランス語で受験しました。もっとも、英語同様ひどいレベルでしたが。入学後は、既存のストックを対象とした場合に、その内の何があるは複数が欠けていることがほとんどです。また、建物によって様々なケースがあるため、一筋縄ではないことがあります。大学での教育にはなじまないも仕方はないかもしれません。

とは言え、世の中がストック重視にシフトしていくことを避けられません。芝浦工大的学生には、良い建物を持つて変えていくのかということも教えることができればと思っています。また、その実現のためにまだまだ多くの技術開発が必要ですので、卒論や修論の研究テーマとしても取り組んでいきたいと思います。最後になりますが、皆様の益々のご発展をお祈りしますとともに、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

【芝浦工業大学工学部建築学科】



生沼善左（一九六一年卒）

この小説は、感動、共感、プライドの為には、人は命をも惜しまず行動出来ると信じて、壮大なビジネスモデル実現に向かって、冷徹に、過酷な気象条件にもパイロット達に離陸を促す支配入りビエールの十時間ほどの一晩の物語です。以前に、若い人たちの前で話した内容を、思い出しながら書きました。今なら「なんとラックな奴」と大げさに言つてしまつた。

この壮大なビジョンは夜間飛行抜きではビジネスモデルとして成り立ちません。なぜなら、昼間稼いだ時間を夜間、汽車や高速船やトラックに取り戻されてしまうからです。そして、多くの勇敢なパイロット達が、このビジョンに感動し、共感し、困難な任務に挑戦し、命を失つています。

この小説は、感動、共感、プライドの為には、人は命をも惜しまず行動出来ると信じて、壮大なビジネスモデル実現に向かって、冷徹に、過酷な気象条件にもパイロット達に離陸を促す支配入りビエールの十時間ほどの一晩の物語です。以前に、若い人たちの前で話した内容を、思い出しながら書きました。今なら「なんとラックな奴」と大げさに言つてしまつた。

小説の時代背景ですが、九十年前、世界は商業航空事業の黎明期にあり、其のひとつに、パリの南方トゥールーズから地中海を飛び越え、カサブランカを経て、アフリカ大陸の西海岸を南下、ダカールから大西洋を横断し、南米エノスアイレスを経て南端マゼラネスに至る一万キロを超える長大な定期航空郵便路線の開拓がありました。だが、この壮大なビジョンは夜間飛行抜きではビジネスモデルとして成り立ちません。なぜなら、昼間稼いだ時間を夜間、汽車や高速船やトラックに取り戻されてしまうからです。そして、多くの勇敢なパイロット達が、このビジョンに感動し、共感し、困難な任務に挑戦し、命を失つています。

この小説は、感動、共感、プライドの為には、人は命をも惜しまず行動出来ると信じて、壮大なビジネスモデル実現に向かって、冷徹に、過酷な気象条件にもパイロット達に離陸を促す支配入りビエールの十時間ほどの一晩の物語です。以前に、若い人たちの前で話した内容を、思い出しながら書きました。今なら「なんとラックな奴」と大げさに言つてしまつた。

小説の時代背景ですが、九十年前、世界は商業航空事業の黎明期にあり、其のひとつに、パリの南方トゥールーズから地中海を飛び越え、カサブランカを経て、アフリカ大陸の西海岸を南下、ダカールから大西洋を横断し、南米エノスアイレスを経て南端マゼラネスに至る一万キロを超える長大な定期航空郵便路線の開拓がありました。だが、この壮大なビジョンは夜間飛行抜きではビジネス

## 近況及び歴史報告

浅見勝（一九七六年卒）



私は、現在、芝浦工業大学の事業法人である（株）エスアイテックに勤務しております。少し自分の事を振り返りますと、研究室は、材料・施工研究室（枝広先生の研究室です）でした。卒業した昭和五十一年は、第一次オイルショックの影響で大手・準大手のゼネコンはほとんど採用がない就職難でした。そんな中、地元群馬県に本社がある佐田建設に入社しました。以来、三十年間、公共施設・工場・集合住宅・病院等の新築現場管理を行ってきました。

その後、バブル景気がはじけた事もあり、公共事業が毎年減り、建設業界がまた冬の時代を迎え、会社も人員削減・私の整理等を行っている中、支店の建築部長をしておりましたが、発注先であったオリックス不動産に誘われ、悩んだ末に転職しました。この不動産会社では、多い年には二十物件程大手ゼネコンを中心し工事発注を行っていました。私は、建築監理部に所属しマンションを中心にテナントビル・物流倉庫等の新築物件の施工監理を行ってきました。その後、研究室の先輩に誘われ、二年半程前より、現在のエスアイテックに入社しました。

今の仕事を少し説明しますと、私の部では大学の三つのキャンパスに事務所を置き、施設管理を大学より委託され、設備・警備・清掃・植栽等の管理を専門業者に発注し、その統括管理を行っています。エスアイテックは、昨年より校友会の鈴見会長が社長になられ、特定建設業の登録も出来、大学の営繕工事及び大学関連の工事であるが、学外の発注者からの工事も一部受注しております。エスアイテックに勤務するようになってから、校友会活動に参加させていただいており、昨年より常任幹事にさせていただきました。埼玉支部でも支部の幹事会・総会を通じ同窓生の生き方をしてきました。芝浦工業大学、信州大学、専門学校等の非常勤講師の経験、JIA学生卒業設計コンクール等の地域審査員、現在も趣味は建築教育といったところでしょうか。昨年末は環境未来住宅コンペティションin東松島にて地域賞を受賞しました。受賞者に実施設計が委託されるということなので復興のお役に立ちたいと思っております。このコンペでは畠の設計も試みました。三・一以後特に、自然エネルギー利用と自給自足を積極的に考えるようになりました。リノベーションも多く昨年、自邸の改修を通して家歴史を積層していくことの大切さを実感しています。

JIA関東甲信越支部保存問題大会が岡谷、諏訪にて開催されたこともあり、岡谷市のまちづくりワークショップ等にて特に旧岡谷市庁舎をはじめとする近代化産業遺産群の活用の仕方も中心となって議論しているところです。JIA関

大学院を卒業して三十一年、自身のアトリエを主宰して二十八年を迎えました。みねぎしやすお先生、石川洋美先生、多くの先生方に大変お世話になり、学生時代に石川先生から「好きなことをやれよ」と励まされてその通りの生き方をしてきました。芝浦工業大学、信州大学、専門学校等の非常勤講師の経験、JIA学生卒業設計コンクール等の地域審査員、現在も趣味は建築教育といったところでしょうか。昨年末は環境未来住宅コンペティションin東松島にて地域賞を受賞しました。受賞者に実施設計が委託されるということなので復興のお役に立ちたいと思っております。このコンペでは畠の設計も試みました。三・一以後特に、自然エネルギー利用と自給自足を積極的に考えるようになりました。リノベーションも多く昨年、自邸の改修を通して家歴史を積層していくことの大切さを実感しています。

JIA関東甲信越支部保存問題大会が岡谷、諏訪にて開催されたこともあり、岡谷市のまちづくりワークショップ等にて特に旧岡谷市庁舎をはじめとする近代化産業遺産群の活用の仕方も中心となって議論しているところです。JIA関

と知合い楽しく交流しております。また昨年、次女が娘を出産し、ようやくおじいちゃんになりました。  
最後に、大学の就職率が益々上がり、スーパーバーグローバル大学に認定され、益々発展する姿を見近で見られる事を喜んでいます。乱筆乱文失礼いたしました。

【株式会社エスアイテック勤務】

東甲信越支部の住宅部会には早くから入会、部会では敬愛する建築家渡辺武信さんとも郷里が同じこともありお声をかけていただき楽しく、新築された自邸にも招待していました。現在都内十五坪の敷地（準防火地域）に二十六坪三階建の住まいを設計しています。生活を拡大しながら常に発見の多い住まいの設計は実際に楽しいものです。娘も某大学の二年生、建築を学んでいます。住居系の建築教育も大変興味深いと感じております。

## 建築を楽しむ

片倉隆幸（一九八三年大学院修了）



片倉隆幸建築研究室主宰  
【片倉隆幸建築研究室主宰】

## 『ありがとうございます！』

今井教江（旧姓飯島）



（一九八六年卒）

先日、昨年亡くなった父の新盆で実家に帰り、優しい笑顔の父の写真を眺めながら近況報告をしてきました。

高校三年生の夏、急に進路を変え建築の学校に進みたいと言い出した私に、父が『形無いものを世の中に造り出すことは素晴らしいことだけど、よほど信頼されなければ仕事は取れないぞ。』と、本当にその覚悟があるのか？と言わんばかりに詰め寄ってきたことを思い出しました。

卒業後、バブルの煽りも受け転々と、いえ貪欲に様々

な仕事を経験させていただき、現在勤務する総合不動産会社（日本土地建物グループ）に落ち着きました。その時はまさか弊社と母校の共同開発により、田町校舎が『芝浦ネサイト』として生まれ変わろうとは想像もしませんでした。かつて通学した校舎は、そこに女子生徒が学ぶ姿を想像できないような（笑）コンクリートの塊でしたから、その変貌ぶりには心躍らされました。形無いものを造り出す・・・父の言つた言葉が心に染みてきました。芝浦ルネサイトの事業には直接関わってはいないのですが、弊社と母校の信頼関係があつてこそ出来上がったんだと嬉しく感じます。

私は入社後、弊社が約五十年ほど前から分譲してきた団地の新築・リフォームに携わり、沢山の個人のお客様と深くお付き合いさせていただきました。一つの仕事を終えるごとに学ぶことがあるうえ、お客様には『ありがとうございます』と言つていただけるわけですから、楽しく忙しいあつといふ間の約十三年間でした。その後異動でCRE戦略部門に配属され、今度は企業を相手に四苦八苦・・・四十歳後半に突入してから久しぶりのスーツとパンプスとビジネス文書、経営陣に向けての分厚いプレゼン作成、今まで横目でちらりと見てきた財務・税務・会計についての勉強・・・減りつつある脳細胞に鞭打つて毎日です。

特に思い出深い物件は、緊急輸送道路沿いに建つ検査済証のない旧耐震の建物（中小企業の本社ビル）の有効活用事例です。建物調査・第三者機関の証明取得からスタートし、改修工事費用捻出のため、助成金の申請、一部ワンルーム賃貸マンションにコンバージョンし収益物件化を提案、事業主に受け入れられ無事に完工できました。建替えた現行法により容積が減ってしまう上に建築費は高騰し見通しは立たない、沿道沿いの旧耐震建物をそのままにしておくことは有事の際に社会的にも社員への責任も果たせないと行き詰っていたオーナー、プロジェクトに携わった仲間達、行政担当者の方・その他大勢を巻込んで紆余曲折

折・波乱万丈・七転び八起き・・・ここでも頑張った『ありがとうございます』の言葉でした。むしろ自分からも関わったすべての方々に『ありがとうございます』と言いたい気持ちです。

父の言わんとした信頼関係は仕事を通して作られていくのだと、自分を支えてくれる方々には勿論、形無いものへ投資の意思を固めてくださる事業主の方々に、日々感謝の思いです。これからも『ありがとうございます』をいただける仕事をしていくね、と父に手を合わせて故郷をあとにしました。

JIA関東甲信越支部保存問題大会が岡谷、諏訪にて開催されたこともあり、岡谷市のまちづくりワークショップ等にて特に旧岡谷市庁舎をはじめとする近代化産業遺産群の活用の仕方も中心となって議論しているところです。JIA関

行くところで工事現場が目に付き埃っぽさが気になつたが、乗り合わせたタクシー運転手に聞くと、「雪の無いこの時期しか出来ないから」との返事に納得。それでも北欧の街並みの統一感・水辺との係わり合いや、歴史的・地理的な背景と今どが上手く係わりあつていると印象を受けた。それは都市計画のごく一部をかじった私だけではなく、誰もが感じるのではないかと思つ。

また、建設現場の施工管理に携わっていた経験から、建物細部に目が止まり『納まり』が気になつたり、『いくらかかるのだろう』の値踏み（良く言えば査定）をしてしまつ・・・染み付いた癖のようなものなのかもしれない。

こう書くと今回の旅が余裕のあると感じる方もいらっしゃるかもしれないが、旅程と費用は家の入念な下調べと徹底した調査があり、私のケチさ故に旅の土産は目に焼きついた景色と決め込んだ次第である。

まとめてみると、今の自分のものの見方、考え方、在籍中の四年と今の会社に就職し、体得した二十年があつてのものだと思う。

非日常を求めキリギ里斯的な行動に走るが、果たしてそれを取り繕う為にアリのよう働く・・・近況報告をすると結論はここに辿り着く。家の次なる旅の企画がいつ持ち出されるかドキドキしている。

【株式会社熊谷組首都圏支店 購買部】

## 卒業後に残ったもの

宮澤守（一九九一年卒）



【日本土地建物株式会社 CREコンサルティング部】

年頭、「結婚二十周年記念に北欧旅行に連れて行く」と家内に誓約書を書かされ、この夏、フィンランド・スウェーデン・デンマークの北欧三カ国に行く事になった。

成田空港から九時間のフライトを経てヘルシンキ・ヴァンター空港へ。北欧の夏の空気の中バスで中央駅に着く。ホテルにチェックインした後、分厚く付箋だらけの旅本を持ち街をウロウロする。澄んだ空気が石畳の道、統一感のある街並を一層演出している。ヘルシンキ→ストックホルムへはこの旅の目玉、豪華客船での移動も体験。ノベル賞の晩餐会が開かれる市庁舎をはじめ世界一狭い道・重みのある街並みに関心させられた。その後、鉄道でコペンハーゲン駅に。午後八時半辺りは未だ明るさも残らないと行き詰っていたオーナー、プロジェクトに携わった仲間達、行政担当者の方・その他大勢を巻込んで紆余曲折

仲間達、行政担当者の方・その他大勢を巻込んで紆余曲折

と知合い楽しく交流しております。また昨年、次女が娘を出産し、ようやくおじいちゃんになりました。

バル大学に認定され、益々発展する姿を間近で見られる事を喜んでいます。乱筆乱文失礼いたしました。

住宅部会では毎月OZONEやLIXILの住まいセミナーを開催しています。僕もコーディネーターや講師などを務めさせていただき楽しく、新宿会場へ訪れるのも楽しみの一つであります。一〇〇パーセント住まいの設計に生きています。現在都内十五坪の敷地（準防火地域）に二十六坪三階建の住まいを設計しています。生活を拡大しながら常に発見の多い住まいの設計は実際に楽しいものです。娘も某大学の二年生、建築を学んでいます。住居系の建築教育も大変実です。



## 建築学科の近況報告

志村秀明 (一〇一五年度建築学科主任)



### 卒業生による就職セミナー一〇一四

建築学科主催の就職セミナーが一〇一五年一月十四日(水)に開催されました。就職セミナーは、一〇〇四年から始まり、今回で十一回目となります。建築設計・構造設計・設備設計・建築施工・建築行政に携わる五名の卒業生をお迎えして、各分野での仕事のやりがいと難しさ、自分がどのように進路を選んだか、学生時代にやっておけばよかったこと等、後輩にだからこそ話せる内容を率直にお話しさ頂きました。

卒業して数年の若い先輩方のお話は、学生にとっても共感しやすく、自身の将来を考える良き参考になったようです。学部生、大学院生共に多くの学生が参加し、会場はほぼ満席の盛況なイベントとなりました。

昨年度の建築学会会報は、建築学科・設立六十周年記念特集号でしたので、二年ぶりの学科近況報告となります。昨年は、その記念式典開催や記念誌の発行が大仕事でした。今年度は、建築学科構想が本格化し、堀越英嗣先生がその設置準備室長として、建築学科と建築工学科、「デザイン工学科からの意見とりまとめて」尽力されています。また岸田慎司先生、郷田修身先生、西村直也先生、土方勝一郎先生が建築学部設置準備室員を務められており、建築学部でのカリキュラム検討といった作業に当たられています。以上の五名の先生だけでなく、学科教室会議でも毎回のように建築学部構想について意見交換していますので、建築学部構想が今年度の大仕事となっています。

一〇一四年度の学位記授与式、卒業記念パーティーは、三月十七日に東京国際フォーラム及び帝国ホテルで行われました。建築学科第五十七回卒業生として百二名が卒業しました。各賞の受賞者は以下の通りです。

□学業成績 最優秀賞・総代

鈴木理恵

□学業成績 優秀賞・有元賞

木俣洋子

□学業成績 優秀賞

市川瑞生／木村めぐみ／斎藤巧朗／清水望実

□卒業論文 優秀賞 (五十音順)

阿久津裕則

「既存コンクリート構造物調査に基づく耐久性評価 -自然環境下でのコンクリートの中性化と水和生成物-」

□卒業論文 優秀賞・浜田賞 (五十音順)

赤池伸吉

「跡地のこれから -一九六四年丹下健三設計・香川県立体育馆の解体と再編-」

□卒業論文 優秀賞 (五十音順)

大野隆仁 「塊中のアコラースタートアップ都市におけるオフィス空間と公共空間の再構築-」

□卒業設計 優秀賞・三浦賞

山下海斗

「圧着接合されたアンボンドP.CaP.C造骨組における体積欠損率に関する研究

□卒業設計 優秀賞 (五十音順)

春日広樹

「ニュー・シネマ・パラダイス -祝祭の地を築くこと-」

□卒業設計 優秀賞 (五十音順)

赤池伸吉

「跡地のこれから -一九六四年丹下健三設計・香川県立体育馆の解体と再編-」

建築学科構想に加えて、本学は文科省のグローバル大

学事業などに採択されており、教育・研究体制の改革が進行しています。建築学科は、教員一丸となって、この改革をより良い方向にもっていきたいと鋭意努力しております。

卒業生の皆様の一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

- 卒業設計 特別賞 (五十音順)  
木俣洋子 「音態 (おとざま) の調律  
-騒音社会における住空間の再編-」  
早川天平 「CELL DIVISION  
-とある工場街の群像-」

石山麟 「後期残響音の時間分布密度が響きの質感に与える影響」

金谷昂平 「木造インフィルの構法開発に関する研究」  
鈴木琴絵 「須影八幡神社に関する建築史的研究」

守屋圭那 「五輪開催決定による市民の社会参加意識の変化に関する研究 - 東京都江東区を事例として-」

二〇一五年度の入学式は、四月一日に東京国際フォーラムで行われ、建築学科では百一名の新入生を迎えました。

二〇一三年度をもって枝広英俊先生がご退職されました。約四十一年間にわたり教鞭をとられ、また学生センターや長などの学内の要職を務められました。建築学科と本学の発展にご尽力頂き、感謝の念にたえません。ご退職後も、昨年度の六十周年記念事業実行委員長、現在の建築会議長を務められ、引き続き建築学科の発展のためにご支援頂いています。

その後任として、二〇一四年度より建築材料施工をこなしています。建築学科は、教員一丸となって、この改革を代理半の若手教員らしく、研究と教育にエネルギーを注ぎ組まれています。



大宮キャンパス（東大宮）



芝浦キャンパス（田町）

- 設備 原嶋宏樹 (はらしまひろき)  
・二〇〇六年(堀越研究室)  
・現職社名 鹿島建設株式会社  
・現職部署名 建築設計本部  
・業務の概要 建築物の構造設計業務  
・現場対応(変更対応、意図伝達業務等)
- 設計 足立幸多朗 (あだちこうたろう)  
・二〇〇七年卒  
・二〇〇九年大学院修了(岸田研究室)  
・現職社名 株式会社安井建築設計事務所  
・現職部署名 東京事務所 構造部  
・業務の概要 建築物の構造設計業務  
・業務の概要 建築設計
- 設備 永吉敬行 (ながよしたかゆき)  
・二〇〇七年卒  
・二〇〇九年大学院修了(西村研究室)  
・現職社名 大成建設株式会社  
・現職部署名 設計本部設備一群  
・業務の概要 設備設計 (病院 他)

## 二〇一五年度 会費納入のお願い

### 編集後記

### 2015年度 会計報告 (2015.7.31現在)

収入		
繰越金	普通貯金	44,772
	普通貯金(支出対応口座)	204,756
	普通貯金(会費受入口座)	2,652,970
現金		2,000
(小計)		2,904,498
会費	年会費振込(既存会員)	578,000
	年会費振込(新会員)	231,000
広告料	会報広告収入	0
雑収入	郵便貯金利子	74
60周年記念事業貸出金回収A		403,173
60周年記念事業貸出金回収B		24,000
(小計)		1,236,247
計		¥4,140,745
支出		
会報第30号印刷費(5,000部)、封筒	325,512	
・払込取扱票/出欠はがき(4,400部)		
宛名シール/封入代/残部送料	92,424	
(発送料) 4,341通×81円	351,621	
会報デザイン校正料	54,000	
ホームページ維持費	112,751	
事務費 通信費	0	
振込手数料	3,456	
建築学科卒業お祝い金	20,000	
60周年記念事業寄付	500,000	
60周年記念事業貸出金	1,000,000	
計		¥2,459,764
次期繰越		
	普通貯金(会費受入口座)	1,046,206
	普通預金	403,173
	現金	231,602
計		¥1,680,981
支出+次期繰越金		¥4,140,745

前年度の決算は左記の通りとなつております。年会費納入率は、ここ数年変わらず低調ですが、昨年度は六十周年記念事業などもかさみ、例年より一層活動資金が目減りしてきております。

年会費は、建築会にとって一番大きな収入源ですし、今年度からは新体制の元、引き続き会報の刊行費用、学科との共同事業などに頑張って参りますので、年会費納入につきましては、

### 一層のご理解とご協力をお願い致します。

納入方法につきましては、封筒に記載されている会員番号をご記入の上、同封の郵便振替用紙で、年会費二千円をご送金下さい。個人情報に変更があった場合は、通信欄にご記入下さい。

本号もお忙しい中、原稿を快諾して下さった卒業生の皆様、先生方、関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。学科との共同事業である「建築学科・設立六十周年記念事業」も無事に終わり、建築会も新体制の元で初心に戻り、活動を始めています。会報も昨年の特別号から通常号に戻りましたが、第三十一号も数多くの卒業生の思い出や現況報告を読み、きっと様々な記憶や映像が思い出されたことだと思います。

別紙でご案内しておりますが、十二月五日に第三回窓会が開催されます。何かと交流を深めるのに忙しい時期ですが、豊洲校舎にも先生や先輩、後輩、そして同級生が集います。ぜひお誘い合わせの上、お越し下さい。創設六十一周年のスタートを、皆さまと祝い、お話できるのを楽しみにしております！

道田淳（一九九三卒）



2014年12月13日の建築学科設立60周年記念式典の祝賀会にて、現役教員および学生と歴代教員